

(公財)日本水泳連盟公認基礎水泳指導員規則(抜粋)

1 趣旨

(公財)日本水泳連盟では、社会体育の一環として、安全で正しい水泳の普及と発展を図る目的で少しでも多くの良い指導者を養成するために、水泳指導員の資格検定試験及び認定を行っている。

2 基礎水泳指導員の任務

(公財)日本水泳連盟もしくはその加盟団体あるいは、公共団体もしくはその機関等が主催又は主管する水泳事業に協力するとともに、スポーツクラブやスポーツ教室等において基礎的指導に当るほか、指導員やコーチを補佐し、適切な水泳指導に当ることができる。

3 検定試験の科目及び内容

(1) 実技

採点は、合=○、否=×とし、各種目で1つでも×があれば不合格とする。

身体に障害を持つ受験者に対しての判定に当たっては、その障害が、本人の不利とならないように配慮する。

※あらかじめ十分練習して正しい泳ぎを身につけておくこと。

種 目	条 件
①100m個人メドレー	1. 制限タイム（男子1分40秒、女子1分50秒）以内で泳ぐ。 36歳から1歳につき1秒加算する。 2. 競泳競技規則に違反しないこと。また、次の場合も不合格とする。 <ul style="list-style-type: none">競泳競技規則の泳法違反とまではいかないが、まぎらわしい泳ぎ。バタフライでバタフライキック以外のキックをした場合。自由形においてクロール以外で泳いだ場合。
②横泳ぎ	1. 20mを12あおり以内（出発は壁・水底をけらない）で泳ぐ。 2. 次の場合は不合格とする。 <ul style="list-style-type: none">横体姿勢が崩れた場合（45°以上傾いた場合）顔が水没する場合逆あおり・カエル足を使用した場合手が水上に出る場合（さき手で水をかいても可）スカーリングを使用した場合
③潜 行	1. 男子20m、女子15mを平浮きの姿勢から潜水し、完全に潜行する。 2. 水中泳形は自由。
④心肺蘇生法	1. 心臓マッサージを含む心肺蘇生法。 2. 手順を間違えた場合は、不合格とする。 ただし、本人が気がつき、手順を正した場合は可。

(2) 学科

各科目ごとに100点法で評価し、全科目60点以上を合格とする。

科目名	主な内容
① 泳の特性・歴史	水泳の意義・特性・歴史
② 水泳技術の構造	水泳の技術(運動原理、ストロークメカニクス)
③ 水泳指導法の基本	水泳と指導者、年齢別指導法、対象に応じた指導
④ 水泳の管理と安全対策	水泳事故、保健、応急手当
⑤ 競泳競技規則と審判法	競泳競技規則、審判法

(3) 面接

水泳指導者としての適格性を、ABCの3段階により判定する。

Cが1つでもあれば不合格とする。

① 物に関する事項	態度、言語、品性、教養、健康
② 水泳に関する事項	熱意、研究心、資格取得の目的、水泳指導の基本的考え方